

産業建設常任委員会会議録

[平成25年 5月23日開催]

南あわじ市議会

産業建設常任委員会会議録

日 時 平成25年 5月23日
午前10時00分 開会
午前11時43分 閉会
場 所 南あわじ市議会委員会室

1. 出席委員、欠席委員、事務局出席職員及び説明のために出席した者の職氏名

出席委員（7名）

委 員 長	阿 部 計 一
副 委 員 長	印 部 久 信
委 員	谷 口 博 文
委 員	出 田 裕 重
委 員	中 村 三 千 雄
委 員	砂 田 杲 洋
委 員	長 船 吉 博
議 長	森 上 祐 治

欠席委員（なし）

事務局出席職員職氏名

局 長	高 川 欣 士
課 長	垣 光 弘
書 記	船 本 有 美
書 記	川 添 卓 也

説明のために出席した者の職氏名

市 長	中 田 勝 久
副 市 長	川 野 四 朗
産業振興部長	岸 上 敏 之
産業振興部付部長 (鳴門の渦潮世界遺産登録推進室長)	興 津 良 祐
農業振興部長	神 田 拓 治

下水道部長	原	口	幸	夫
農業振興部次長	森	本	秀	利
都市整備部次長	垣	本	義	博
下水道部次長兼下水道課長	岩	倉	正	典
農業委員会事務局課長	小	谷	雅	信
産業振興部商工観光課長	阿	部	員	久
産業振興部企業誘致課長	北	川	真	由美
産業振興部水産振興課長	榎	本	輝	夫
農業振興部農地整備課長	喜	田	展	弘
農業振興部地籍調査課長	和	田	昌	治
農業振興部農業共済課長	宮	崎	須	次
都市整備部管理課長	和	田	幸	三
都市整備部建設課長	赤	松	啓	二
都市整備部都市計画課長	原	口	久	司
下水道部企業経営課長	江	本	晴	己

II. 会議に付した事件

- 1. 所管事務調査について…………… 6
 - (1) 産業振興の推進について
 - (2) 農業振興の推進について
 - (3) 都市整備事業の推進について
 - (4) 下水道事業の推進について
 - (5) 農業委員会に関すること
- 2. その他…………… 3 3

III. 会議録

産業建設常任委員会

平成25年 5月23日(木)

(開会 午前10時00分)

(閉会 午前11時43分)

○阿部計一委員長 皆さん、おはようございます。

早朝から、産業建設常任委員会に御出席をいただきましてありがとうございます。

ただいまから、当委員会を開会いたします。

副市長、何かありましたら。

副市長。

○副市長(川野四朗) おはようございます。

もう一足飛びに真夏が来たようでして、きのうの最高気温は30度4分というふうなことで、非常に暖かくなりました。まだ梅雨が来てないわけなんですけど、これからやっぱり梅雨、それから夏ということで、大変な時期を迎えるわけですが、体には気をつけたいものだなと思っております。

1点だけ、ちょっと御報告をしておきます。

以前もちょっとお話をしたかと思うんですが、一昨年、コアラがオーストラリアから5頭、4頭、寄贈されまして、今、赤ちゃんが生まれて、皆さん方に楽しんでいただいておりますが、その返礼として、兵庫県のほうがオーストラリアに、西オーストラリア州のパスの議場の横側に日本庭園を寄贈するというので、工事を進めておったわけなんですけど、それが完成をいたしました。特に、かわらを使った公園ということで完成をいたしました。その贈呈式をするということで、県からは吉本副知事が出席するので、南あわじ市のほうも出席してほしいという御要請がありましたので、いろいろ検討した結果、市のほうからは私ともう一人と、イングランドのほうからも2名、4名、南あわじ市から吉本副知事に同行して贈呈式に参加するというにいたしております。県のほうは吉本副知事初め、国際交流局長と兵庫県国際交流協会の方が2名、合わせて8名で西オーストラリア州を訪問することにいたしておりますので、28日出発して、6月2日に帰ってくるということで、私も出席をさせていただきますので、どうかよろしくお願いを申し上げたいというふうに、御報告をさせていただきます。

○阿部計一委員長 ちょっと報告しておきます。

都市整備部長の山崎部長が、公務が重なっておりまして委員会を欠席するというのでございます。それと議長が、これも公務のために11時までおって、出られるということでよろしくお願いをしたいと思います。

印部副委員長。

○印部久信副委員長　　今の副市長のお話なんですが、私が思うのに、たしかコアラをいただくのに、あのときに、知事と市長と、たしかあのとき、阿部議長だったと思うんですが、もらうというようなことで行ったことがありますよね。コアラを贈呈してもらうということで、たしか阿部議長のときに。

○阿部計一委員長　　いや、あれは兵庫県と西オーストラリア州の30周年記念式典ということで行ったんです。

○印部久信副委員長　　行って、そのときにコアラを新しくもらうという話をしてたんと違うかな。

○阿部計一委員長　　いや、そんな話はしてないですよ。新しくコアラをもらうということとはしてないです。

○印部久信副委員長　　あれは、新しくコアラをもらうというようなことは、県とかうちからオーストラリアに行って要請したことはなかったんですか。

(発言する者あり)

○副市長(川野四朗)　　要請はなかなかできひんですけれど、その下地づくりは、登里議員が議長のとときに、中学生の人形浄瑠璃部を連れていって、そういう環境づくりをしようということでやって。結果的には30周年の周年行事のときに、オーストラリア州がそういうふうなコアラをこちらのほうに贈呈しようという機運になっていただきたいなということでやったわけですし、それが結果、功を奏したということになって、今回のように。

○阿部計一委員長　　印部副委員長。

○印部久信副委員長　　そんで副市長、私が言いたいのは、今、オーストラリアへ今回行くという名目、名前を今、ぱっと今言われたんやけど、できたら議長もそのメンバーの中に入れておいてもうたほうが、我々としてはええんかなということをちょっと思うたんで、今言いよるだけのことですけどね。そんなような、今、話を聞いて、だったら議長も行ってもうたほうが、我々、議会としていいんでないかなと思ったんで発言しとんだけどね。そこらもう、裁量の余地はないんなら、もうこれはほんでええんやけど、またでけた

らそういうことも考えてもらいたいなということで。

○阿部計一委員長 ちょっと印部副委員長。これ、あのときは西オーストラリアと兵庫県
の30周年の記念ということで、ちょうど私が淡路の議長会の会長をしとったとい
うことで。それも、どないぞ行ってくれでなしに、行けたら行ってほしいというよ
うなことで
行ったんでね、今回とはまた趣旨が違うと思います。

印部副委員長。

○印部久信副委員長 ただまあ、けど、その登里議長というのもそういう、行ったとき
にはいわゆる、こういう誘因になってきた関連もあるのかなと思うんで、でけたら、そ
ういう機会があるんなら、議長も議会の代表として行ってもうたらなということ
を言った
だけなんです。

まあ、このことはここでどうこう言うことでなしに。配慮できるもんなら配慮してほ
しいということで、終わっておきます。

○阿部計一委員長 それではただいまから、閉会中の継続審査として申し出があります
所管事務調査事項5件について、調査したいと思います。これに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○阿部計一委員長 その前に、江本課長、何か発言があるようなんです。

企業経営課長。

○企業経営課長(江本晴己) 先月、印部副委員長さんからの質問の中で、下水道早期
接続者奨励金の現在までの交付件数を報告せよということがありましたので、報告させて
いただきます。

この制度につきましては、平成19年8月1日より施行されておりますので、平成19
年度から24年度までの件数の報告になります。全部で1,473件となっております。

以上です。

○阿部計一委員長 印部副委員長。

○印部久信副委員長 その内訳を知りたいわけですか。いわゆる、1年目に接続した方、
2年目に接続された方、3年目に接続ということがあったと思うんです。その1年目、2
年目、3年目で報奨金の金額がたしか、違ってたと思うんですね。私の言いたいのは、2

年目、3年目に接続をされたということになって、報奨金を出したということになれば、いわゆる下水道の、あの当時やった、推進課か何かがあったと思うんですけど、そこがいかにも努力をしたかという結果ともいえると思うんでね。その結果の数字を知りたいわけ。

○阿部計一委員長 企業経営課長。

○企業経営課長（江本晴己） 1年以内に接続された方、この方には3万240円交付されます。それが1,059件です。それから、2年以内、これは1万5,120円、396件。3年以内ですが、この制度は平成24年度から設置されてます。1年間だけの数字になりますが、これが7,560円の交付で18件となっています。

以上です。

○阿部計一委員長 それでは、5件一括して議題といたしますが、それに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○阿部計一委員長 それでは、質疑に入ります。

谷口委員。

○谷口博文委員 食の拠点について、まずお尋ねをしたいと思います。

先般、議会報告会等々で、一部の市民の方から、食の拠点の事業規模が13億等々というようなのが、ひとり歩きしたような数字が出とんのやけど。そのあたり、食の拠点の進捗について、まず冒頭にお尋ねをいたします。

○阿部計一委員長 農業振興部次長。

○農業振興部次長（森本秀利） 食の拠点整備事業の進捗でございますが、前回の委員会におきまして、部長からも御答弁させていただいておりますとおり、現在はいわゆる、食の拠点施設の運営管理につきまして、新しい会社を設立して、そこで運営管理をしていきたいということで今、考えております。その新しい会社に参画いただける事業者さんに今、御協力のお願いをして御検討をいただいていると、そういうふうな状況でございます。

あと、先ほどの13億という全体の事業費なんですけども、これにつきましては現在考えております直販所とレストラン施設、それとあと、加工場、情報の発信施設、そういったものを一体としたものとして。それと加工施設であったり、また、体験農場とかそうい

ったことをしていただくもの、これをあわせまして、27年度から30年度でしたかね、全体計画としまして、今、約13億という概算をおいてございます。

○阿部計一委員長 谷口委員。

○谷口博文委員 ほんで、今のは、結局、事業主体よ。その辺を、どういうふうな事業主体。要は、ファンドというかそういうやつでやるもんか、市がある程度、関与してやるんか、それとも、民間というかその辺、JAなりがやっていたか。その辺は今、どのような計画でおられるんですか。

○阿部計一委員長 農業振興部次長。

○農業振興部次長（森本秀利） 今、ちょっとお答えさせていただきましたとおり、新しい新会社で運営をしていくということで、そこに参入をいただける団体さんについて、今、御協議といたしますか、御検討をいただいていると、そういうことでございます。

○阿部計一委員長 谷口委員。

○谷口博文委員 要は新しい、例えば民間が参入したいと言うたら、あれなんですか、入れていただけるわけですか。例えば、先ほど言うように、直売所、加工場、レストラン、例えばレストランをやりたいと言うたら。どういうふうなところへ届け出なり申請をしたらいけるのか。

○阿部計一委員長 農業振興部次長。

○農業振興部次長（森本秀利） あくまでも運営会社ということで、新しい会社の組織づくりを行うということでございますので、参画というお話になりますと、先ほどのファンドというんですかね、投資、出資いただけるということにはなるのかなと思います。

○阿部計一委員長 谷口委員。

○谷口博文委員 もう一つ、よう理解できひんのでけんど。今、ワーキングチームというて、JAや酪農や何やらその辺と協議して。ほんで私の理解では、その場所というか位置がイングランドの周辺でやんねと。ほんで、いきなり直売所、レストラン、体験農園、加工場。いきなり今、次長が言うようなやつを、最初からそれだけのことを目指し

てやられるわけですか。

○阿部計一委員長 農業振興部長。

○農業振興部長（神田拓治） さきに谷口委員さんが言われたように、この事業については食の拠点推進協議会、母体つくって、その下部組織にワーキングチームを結成して、二、三年間、調査研究をしてきました。その中には、パートナー企業というんか、民間の方も入っていただいて、民間の意向も掌握して計画を立ててきました。

その計画で、イングランドの付近ということで今、計画を立てておるんですけども、この工事は、さっき次長が言われたように、全体計画あるんですけども、1期工事と2期工事に分けていきたいと。まず、1期工事については、直売所とレストラン、それから情報発信基地、この3点を、できたら早目につくりたいと。その場所については、イングランド付近の駐車場につくりたいと。新しい用地を購入せずにつくりたいと。2期工事といましては、今の敷地で建物を建てますので、やっぱり駐車場とかそういう等の用地が不足してくるということで、28年度から養宜地区の圃場整備が始まりますので、圃場整備委員会と協議の中、何とかその用地を生み出してもらえないかということで協議を進めておると。2期工事に、さっき言いました加工場とか食育の農業体験場とか、その辺を整備していきたいというような計画です。全体含めて13億、用地代も入れて13億というような、今の概算契約を立てております。

○阿部計一委員長 谷口委員。

○谷口博文委員 ほんで、政府のというか、6次産業化の補助事業というか補助メニュー、この辺は何かこの13億の中で、農林か何かのほうで補助事業メニューというやつはあると思うのやけど。その辺の申請というのはどなたがされて、大体、どれぐらいの補助というのがいただけるわけですか。

○阿部計一委員長 農業振興部長。

○農業振興部長（神田拓治） 活性化交付金ということで、受け入れ機能、活性化交付金をいただくということで、このメニューの中の対象になれば、50%交付金をいただけるということで、このたび、全体計画で申請をあげてます。これ、5カ年計画なんですけども、25年度の当初につきましては、25年度の当初予算がちょっとおくれた関係で、4月中に募集がありましたので、その募集についてこのたび、あげております。一応、対象になる項目を積み上げていって、10億円の基本額に対して、5億円の交付金をいただ

けるように今、申請しておりますけども。内示が、4月募集ですので、まだ内示が来てない状況ですけど、大体は計画どおりいけるのではないかなというふうに思っております。

○阿部計一委員長 谷口委員。

○谷口博文委員 この活性化交付金というやつは、6次産業でないけど、生産加工販売というか、最終的にはこの加工施設もつくったような状況でなかったら、補助というのはいただけへんのか、それとも今言った50%の補助というのは、総事業費の、例えば13億の50%がそういうふうな活性化補助金的なものでいただけるわけですか、交付金。

○阿部計一委員長 農業振興部長。

○農業振興部長（神田拓治） 各項目ごとに、年度ごとに。まず、全体計画を承認していただきまして、その後は、認めてもらえれば各年度ごとに、各項目ごとに申請していくということで。だから今、全体を、13億やけども、この事業の上限が10億円、対象が10億円になってます。当然、用地とかその辺の、附属施設については対象外。できるだけ少しでも補助金もらいたい、交付金もらいたいということで、10億円以上はもらえませんので、当然。計画であげて、次は、単年度ごとに申請していくと。全体計画を認めてもらう申請を、今している状況でございます。

○阿部計一委員長 谷口委員。

○谷口博文委員 そしたらその辺の、資本の捻出するには、ファンドであったり、市がどれぐらい出して。例えばあと、参入したいという方々がどれぐらい出資していただいた上で、残りの50%というやつを資金確保する予定なんですか。

○阿部計一委員長 農業振興部長。

○農業振興部長（神田拓治） これについては今、冒頭にも説明させてもろうたように管理主体を。運営するには一番、中心になる人が要りますので、行政が中心になって運営するわけにはいきませんので、管理主体を誰かにしていただきたいということで今、打診をしている状況でございます。基本的にはこれ、農業者で組織せなあかんということで、JA、あわじ島農協、酪農協、漁業組合を中心に、あと、農業関係のパートナー企業、それと当然、生産者、直売所に出荷していただける生産者で組織していきたいということで、その中で誰か代表をしていただけないかというて今、打診中でございます。もしり

ーダーが決まれば、リーダーの意向に沿って、ある程度今後、計画をつくり直していかなあかんというふうに思っています。

○阿部計一委員長 谷口委員。

○谷口博文委員 組織はもう、できとんのか。組織づくりというのは、できとんのか。結局、もう簡単にちょっと言うてほしいんやけど、市はどんだけ出すぐらいの気持ちでおるのか。13億で50%、交付金でいただけると。ほんなら市は、1億出すんか、2億出すんか、市はどういうふうなことを考えとんの。

○阿部計一委員長 農業振興部長。

○農業振興部長（神田拓治） これからの新しい組織との相談になるかと思います。基本的には、前も言いましたように、できるだけ初期投資は行政も協力しまして、あと、運営管理については新組織でやってほしいという思いがあります。今、冒頭で13億円、全体事業費で要るということですがけれども、このうちのさっき言いました活性化交付金で、一番いいのは対象額10億円の2分の1の5億円いただければいいんですけども、中身の精査もしていきよったら、4億円ぐらいになるかもわかりません。後の残については、市の出資と、これと関係者団体の出資金で賄っていかなあきませんので、その辺についての割合についてはまだ、そこまで精査してませんが、ある程度、初期投資については行政も御協力していきたいなというふうに計画しております。

○阿部計一委員長 ほかに。

ちょっと、副委員長。

○印部久信副委員長 阿部委員長。

○阿部計一委員長 今の関連ですけど、私、聞くところによりますと、今言いよったらもう下部組織とか、協力団体もできとるように言いよるけども、そういうスキームやいうのは全然できてない中で、上滑りしていきよるということを聞くんやけど。今言いよったように、部長、ほんまにもう、きちっとそんなにできとるわけ。例えば農協とかそこら関連の。できとらへんだ。その辺どないよ。きっちり、もうできとんのか、その下部組織。その辺はつきり。私が聞いとるのは、そんなん全然できてませんよとって。それが13億6,000万とか、議会報告会にも出てくるねんけども。事実のところをやっぱり言うといったほうがええんと違うか。できとったら結構なことやけど。どうですか。

○印部久信副委員長 農業振興部長。

○農業振興部長（神田拓治） 協議会におきましては、一応、概要を説明して承諾をいただいております。一番問題になるのは、さっき委員長が言われたように、参加する組織の団体。それについては一応、協議会では賛同はいただいておりますけども、中身の、組織に参加する個々の分については、まだ最終的に決まっております。そういうような状況でございます。

一番問題になるのが、中心になる人、誰になってもらえるのか。そこについてはできるだけ、農産物を中心に売りますので、農協が中心になっていただければ一番スムーズに行くのではないかとということで、農協と今、協議をしております。農協のほうも、経営がうまくいくなかいかへんか、今、農協自体も調査に入っております。農協もこの間、視察も行っていただきまして、今、この事業がスムーズに行くかということで内部で今、協議するというので、そういうような状況でございます。

あとの各種団体についても、今、調査研究、この間も漁業組合、5組合あるんですけども、5月の11日だったですか、四国のほうへ、よい事例を一緒に見に行ってきた。漁業組合のほうも、参加はする意向はあるんですけども、どのような運営方法をしたらいのかというのが今模索中でございます。そういうふうな状況でございます。

○印部久信副委員長 阿部委員長。

○阿部計一委員長 それはもう、肝心やと思うんで。今、聞いたら、前へ行きよることは確かやけども、まだまだ確定的でないというようなので。その辺をやらんことには前へ行かんと思うんで、しっかりとひとつ、よろしくお願ひしたいと思ひます。

長船委員。

○長船吉博委員 これも関連で。今、福良の町もかなり寂れてきてる。それは、商業の大型店舗が出てきて、かなり影響を受けとる。この直販所、レストランもやけども、この地元の商業者に対する影響、そこらの調査等は全然、やられてないんでしょうか。

○阿部計一委員長 農業振興部長。

○農業振興部長（神田拓治） 地元の直売所をつくることによって地元に影響が出てくるといふのはよく理解しております。この人たちもできるだけ参加してくれたらいいんですけども、直売所が中心になると思ひますので、生産者が中心になってくるといふふうな

ことをございますので、その辺のところの調整を今後まだ、今後から進めていきたいなというふうな思いでございます。

○阿部計一委員長 長船委員。

○長船吉博委員 これ、淡路という特殊な地域なんよ。これ、橋を渡ってこな、来られんわけ。結構、橋代、高いやんか。高速代やったって。外からどれだけ、調査して、来てくれるかというのがわかってない。そこへ持ってきたら、やっぱり地元の住民が、言えば対象、お客の筋として対象になるわけ。当然、地元の人がそこで購入すると、やっぱり地元の商業者に、かなりの影響を与えるというふうに思うんよね。そこらやっぱり、もう少し商工会なり、そこらとも意見交換をするようなことも一つ、必要でないかと思うんですけども、いかがでしょうか。

○阿部計一委員長 農業振興部長。

○農業振興部長（神田拓治） 委員さん言われるように、もう少し具体的になれば、また商工会の関係団体と協議していきたいなというふうに思っております。直売所と、その加工品も結構、展示というか、店頭に並べたいなというふうな思いもありますので、その辺も含めて協議したいなと思います。

○阿部計一委員長 長船委員。

○長船吉博委員 産業振興部長、よろしく頼みますよ。あんたどこやってな。

○阿部計一委員長 産業振興部長。

○産業振興部長（岸上敏之） 今、商工会の関係というようなことで、昨日も総会があって、新たなメンバーがスタートしたわけでございまして。ぜひその辺を、農業振興関係と連携を、どこまではかれるかというところなんですけど、十分努力をしていきたいと思っております。

○阿部計一委員長 長船委員。

○長船吉博委員 努力とって、わし、言いよる意味、よく理解してくれとんだ。地元の人たちの、商業者にどれだけ影響を与えるか、そこらをやっぱり産業振興部として、そ

れを真摯に受けとめて、それなりのことをやっぱり。農業振興部のほうとも協議していつて、どこか生きる術とか、そういう方策も個々いろいろ協議し、考えて。また新たな取り組みも模索する必要があると思うんでやな、そこら、結構、ほんま大事やと僕は思いますよ。真摯に受けとめておいてください。

○阿部計一委員長 ほかに。
 印部副委員長。

○印部久信副委員長 この産直問題は、私は前回も言いましたように、毎回、その進捗状況を聞くというようなことを言うたって。いろんな委員の人から聞いてくれとるんですが、先ほど、部長の答弁の中で、ちょっと気になることがあるんですね。これは事業費、十何億かかろうが、国庫補助もらおうが、一般財源から使おうがともかくとして、この13億の事業費の中に一般からの出資金を入れるというようなことを言うてましたけど、この施設をつくる事業費13億の中に、一般からの資金を入れるんですか。私は運営会社に対して出資するというように思うとったんですが、施設をつくるところにも一般からの金を入れていこうと思うとるんですか。

○阿部計一委員長 農業振興部長。

○農業振興部長（神田拓治） 今、契約しているのは、全体が13億円とします。そこで活性化交付金を、対象額が10億円ですので、全額もらえたとしても2分の1ということで5億円。5億円もらえたと仮定すれば、後残り8億円要ります。8億円の中に、用地費とかそういうものがある程度、市が購入して貸し出すと。この運営会社に貸し出すと。運営会社が母体として大体5億円ぐらいお金を集めてこなければならぬと。5億円のうち、さっき委員さんが言いましたように、ファンド制度を。ファンド制度というのは、出資者のうちの50%以下。ファンドが50%を超えてしまえばファンドが主導権を握ってしまいますので、生産者が主導権を握らなあきませんので、ファンドがそのうちの50%以下のファンド借り入れをすると。後の残りについては生産者で、組織する生産者で資金を集めるという考えのもとで今は計画を立てております。

○阿部計一委員長 印部副委員長。

○印部久信副委員長 これ、部長、やけど、おかしな話やと思うな。この食の拠点推進協議会というものが先にできて、こういうものをつくりたいので市のほうへ何とかしてくれと言うてつとるなら、このお金、5億円、我々も分担するさかいということをつくって

ほしいと言うてくるんやったらわかるけど。何かこれ、私ら、今までの話の経緯からしたら、市がこういうものをつくりたいと。ついては、推進協議会をつくってくれと。その中で、こんだらその一部負担金の5億円はあなた方で持ってくれというような感じやな。下から沸いてきた話でなしに、市のほうからこういうものをつくるから、あんた方こういうことで協力してくれというような話のように思うんやけどね。どない。民間から沸いてきた話やったら、これは話をしやすいんだけど、市がこういうものをつくるから、あんた方、これに対して組織をつくってもうて、こんだけの出資を出してもうて、後、運営会社でやってくれというような。これはやけど、おかしな話やのう。

○阿部計一委員長 農業振興部長。

○農業振興部長（神田拓治） 今までの流れであれば、行政主導型で建物をたって、委託管理、指定管理で新しい運営会社に任せるとというのが筋であったと思いますけども、この組織をつくった中で、どんなやり方が一番いいのかなということで、協議会でいろいろ検討してきました。ある程度、初期投資については市も協力しますけども、母体については新しい組織で。建物の計画から運営まで自立するほうが、責任を持って本腰で取り組めるといような意見もありました。そこで、皆さんにかけて、初期投資には行政は協力すると。後の運営というのは、建築から投資していく、補助金、もらえるものはもらっていく、当然もらいますけども、後の、施設から運営についても、新しい組織みずから運営していくと、ある程度責任を持って運営していくという、ワーキングチームの中でもそういう意見がありましたので、その方向で進んでおります。

○阿部計一委員長 印部副委員長。

○印部久信副委員長 どうも釈然とせんな。これは、やけど、言いだしっぺは市だ。市がこういう施設をつくりたいと思っとると。ついてはこれ、運営するのに協議会をつくってくれと。つくってもうて、部分的に今、その中で出資もしてくださいと。それで後、運営してくださいということだ。市のほうから食の拠点をつくりたいと言いよんだ。市のほうから。そうだ。そんで、協議会つくってくれ、出資はこんだけしてくれ、後の運営はあんた方でやってくれ。何かおかしい話になれへんか。そういう食の拠点をつくりたいというようなことが民間から沸いてきて、市も協力してくださいというのと、全然違うように思うんやけんどな。違うか。

○阿部計一委員長 農業振興部長。

○農業振興部長（神田拓治） 委員さんが言われるのは、ようわかるんですわ。施設をつくって、指定管理で渡したら、こういう直売所という事業内容を見ますと、自分、自主的に責任を持ってする意欲が薄れてくると。

○阿部計一委員長 印部副委員長。

○印部久信副委員長 いやいや、部長、それはおかしいぞ。食の拠点をつくりたいから市よ、こういうものをつくってくれと言うてったんなら、意欲はあるわいな。それをやろうという人は意欲はあるわ。こういうのを我々、やりたいねんから、市よ、こういうものをつくってくれと言うてって、市も、そんだったらやりましょうと言うなら意欲はある。市がこういうものをやりたいさかい、あんた方やってくれ、やる人は意欲のあるようにやれて、そんなことはおかしくないか。市がお願いしよんのだろう、運営会社をつくってくれて言うて。協議会つくってくれて言うて。どこも民間から、これをつくってくれて言うてとるとの違うんだ。市が主導しよんのでしょ。市が主導しよんの違うの、この食の拠点というのは。それでやるさかいに、食の拠点推進協議会をつくってくれと言うて、市のほうから依頼してつくってもろうとんのだ。そうだ。そんで、この事業をするに対してこの部分に対してはあなた方から出資してください、指定管理にしたら意欲がわきませんので、出資も出してやってくださいって。何か話がおかしいのう。市がこういうことを思うとんでやるねんさかい、運営協議会つくってやってもうたり。市がお願いしてこういうことでやってくれて言うていかんの違うの。誰もこれ、南あわじ市の民間のほうから、こんなのつくってくれて、市にお願いが来とれへんはずやで。

○阿部計一委員長 農業振興部長。

○農業振興部長（神田拓治） 委員さん言われるのはそうなんですわ。下部組織のワーキングチームで、この運営について検討しました。検討した中で、意見が多かったのは、初期投資については市は協力してほしいと。ただし、運営自体は独自で、さきに言いましたように、リスクもなかって、ただ施設つくって運営して、もしうまいこといかなかっても全然リスクないんですよ。市がみんなみてくれるわと。そういう組織をつくったって、今までの事例見よったらうまいこといかないと。ワーキングチームの中から出てきたんですわ。初期投資は市も出しますよと。後の建物を建てるどころから。

○印部久信副委員長 初期投資は市も出しますよじゃなしに。市は事業の施設をつくりましょうと、後の運営を皆さん方でやってくださいというなら話はわかるけど。市が初期投資を出しましょう、誰も頼まれてないものをつくって、初期投資を出しましょう、後、

あなた方、協議会つくって後の部分的な負担をして、運営は皆さん方で会社つくってやってください、おかしいのう。理解でけらんわ。

○農業振興部長（神田拓治） 言われるのもごもつともなんですが。

○阿部計一委員長 2人でやれや、もう。委員長おるんやから、手を挙げてちゃんとやれよ、お互いに。ええかげんにせえよ。

暫時休憩します。

（休憩 午前10時40分）

（再開 午前10時50分）

○阿部計一委員長 それでは、再開いたします。
印部副委員長。

○印部久信副委員長 ちょっと、さっきからの部長との話で整理したいんですが。ちょっと我々が今までの説明を聞いておったのと認識が、ちょっと違うとったんで整理させてほしいのやけんど。

事業費13億のうち、市が国庫補助をもらおうが一般財源から行こうが、それはともかくとして、実質、一般からどれだけの負担を求めるようになるんですか。

○阿部計一委員長 農業振興部長。

○農業振興部長（神田拓治） 13億のうち、今、活性化交付金を申請しております。内示が来れば一応、基本額が10億円の2分の1。5億円を活性化交付金を財源にしたいなというふうに思っております。ただ、精査すれば、5億円が4億円になるかもわかりませんが、一応、活性化交付金を活用したいと。残りの8億については、市もこれを各種団体に話しかけた経緯もありますので、そういう施設が必要ということで話しかけた経緯もありますので、用地についてはできるだけリスクを少なくするために、市で用地を確保したいと。そのお金と、それと、運営するについて一部負担していきたいなということで、市は4億円ぐらいを計画しておると。後の4億か、活性化交付金が例えば4億に、1億下がりましたら5億が、新しい組織とする生産者団体で4億ないしは5億を確保していただきたいと。そのうちの2分の1弱については、農業ファンドを活用していきたい。ということは、2億か2億5,000万円をファンドでお金を借りまして、後の残に

については組織する生産者団体の出資金で賄いたいというのが今の財政的な計画でございます。

○阿部計一委員長 印部委員。

○印部久信副委員長 これとにかく事業をするためのもろもろの施設はこれですわね、この2億円は誰が出資するのかは別問題として。今度は、運営するのに運営会社もつくらんなんでしょう。運営会社。この運営会社についたら、この4億円を出資した人とイコールになるわけですか。施設をつくるための4億円を出資した人と、運営会社をまた立ち上げて出資する場合、この人たちはイコールになるわけ。

○阿部計一委員長 農業振興部長。

○農業振興部長（神田拓治） ほぼイコールになると思います。ただ、イコールにならないのは、この組織をつくるのに一般の方々にも出資を募っていききたいなという思いもございます。一例を挙げますと、ここで、直売所でございますので、農家の人がここで出店する場合は当然、出資金並びに年会費を払います。でも、農家でない方でもここへ出資する方もおられるかもわかりませんので。その辺の方々も出資を募っていききたいなというふうに思っています。

○阿部計一委員長 印部副委員長。

○印部久信副委員長 これね、部長。出資するということは、ある意味ではこれ、出資するということは出資に対して配当というものがついて回るわけやのう。そうだ。運営会社は利益が出る可能性がある。ということは、出資した者に対して出資配当というのが出てくる。それと、直接ものを、いわゆる農産物を直売所へ持っていったる人は会社からの配当が仮になかっても、それなりの利益が出る可能性があるわけやな。ものを持って行って売ると。この施設に対して出資した人は、そしたら、どんなメリットがあるんですか。

○阿部計一委員長 農業振興部長。

○農業振興部長（神田拓治） 年間利用券とか、出資してくれた分に対する配当は考えております。配当の仕方をどのようにするか、今後、新しい会社ができたらみんなでこの辺を協議していくと。

○阿部計一委員長 印部副委員長。

○印部久信副委員長 けどね、部長。運営会社はきちっとしたいいわゆる会社になるねんから、それなりの社長からいろんな関係者ができるんやけれども、施設は、施設に出資した場合、この管理者は。施設の管理者は誰になって、この施設はどんな利益を生むんですか。施設は。

○阿部計一委員長 農業振興部長。

○農業振興部長（神田拓治） その、今言われた管理者については、今、その新しい組織に入っていて人たちに募っておる状況で、管理の頭をとっていただける人を今、打診している状況なんですよ、今は。

○阿部計一委員長 印部副委員長。

○印部久信副委員長 いやいや。運営会社は、今言うように、農協になるんか、酪農会社になるんか、そんなところが社長になるんか、中心的な存在になるんかわからんけど、この施設は、13億かけたこの施設は、運営会社に有償で貸与するんであれば、この施設は利益を生むねんから、一般の方が出資してあっても何らかの、出資配当とか何らかのメリットが出てくる。そうでしょう。でないと、この施設がお金を生めへんの。この運営会社に出資した人とイコールになるならば、どちらかの形で利益を受けることができるわけやな。施設にも出資しました、運営会社にも出資しました、自分の農産物を持って行って直売所で売っている、という人は利益を共有するわけ。一般人が施設に対して4億円を出資する中へ入ったところで、何のメリットもないと、私は今思うのやけれども。何かメリットが、私が考えている以上の何かメリット、あるんですか。

○阿部計一委員長 農業振興部長。

○農業振興部長（神田拓治） 先ほど言いましたように、出資割合に対して配当していきたいなということです。

○阿部計一委員長 印部副委員長。

○印部久信副委員長 そのお金はどこから生むんですか。

○阿部計一委員長 農業振興部長。

○農業振興部長（神田拓治） 当然、収益がなかったら配当できませんので、収益できるような経営をやっていききたいなど。

○阿部計一委員長 印部副委員長。

○印部久信副委員長 部長、よう考えてよ。収益は、運営会社は、収益出る可能性がある。施設は利益が出る可能性あるの。そうだ。そうよ、施設が利益生むかいや。

○阿部計一委員長 農業振興部長。

○農業振興部長（神田拓治） 済みません、私も勘違いしておりました。施設の管理と運営の組織とはイコールです。

○阿部計一委員長 印部副委員長。

○印部久信副委員長 そうでしょう。そんだったらわかる。そうだ。そうでないと、一般人も施設に対して出資できますわいうたら、利益の生まんところに出資して、配当出るはずはないんでがな。そやから、施設に対する出資と運営会社に対する出資をされる方はイコールでなかったらいかんの。そうだ。そういうことや。

委員長、続けていいですか。

○阿部計一委員長 印部副委員長。

○印部久信副委員長 そうなってきますと、それで施設はできた。今度は運営会社は、今からその出資者を募っていく場合、いわゆる主体としては農業団体もありますけど、主は一般の農家で生産したものを直売するんでしょう。それを、果たして運営していく場合に対して、その出資者はどれぐらいやったらあの施設が1年間、漁師さんも入れて鮮魚も売るとかなんとか言うてましたけれども、どれぐらいの農家の人数を確保したらできるというふうな、今、試算を置いていますか。

○阿部計一委員長 農業振興部長。

○農業振興部長（神田拓治） 基本的には、その施設、直売所へ行って、日常生活の食

材をある程度確保できるものを並べたいと。そういうことになれば、農家の生産者の、大体、常時出荷してもらえるのが500人ぐらいが理想ではあるのかなと。今、事前に南あわじ市で、直売所で運営しておる、野菜を特に運営している団体が5地区がございます。5地区の今、出店されている方を合計すれば200人前後でございます。そこを中心に輪を広げていって、将来的に500人ぐらいをめどに計画を立てていきたいなど。

御存じのように、加盟してくれる農業者というのはある程度、常時500人を目標にすれば、1,000人ぐらい必要であろうかなと。1,000人ぐらい登録していただきまして、協力していただきまして、そのうちの常時出店していただけるのが500戸ぐらいをめどに、これから誠意努力していきたいなというふうに思っております。

○阿部計一委員長 印部副委員長。

○印部久信副委員長 このことは今、まだ走り出したところなんで、何もかも聞いてもそれは答えらんので、随時、また聞かせてもらいますので。終わります。

○阿部計一委員長 農業振興部長。

○農業振興部長（神田拓治） 4月のこの事業を進めるにおいて、農家の人がどういう意向を持っておるのかなということで、3月の転作の説明会のときに、各農会長にこのアンケート調査を実施しております。その結果の第1次集計ができましたので、そのアンケート結果の概要をちょっと説明させていただいても結構ですか。

○阿部計一委員長 その点については、まだやるのけ。
長船委員。

○長船吉博委員 アンケート結果、口頭で言われたって、必死で書かんなんやってやな、プリントでいただきたいよう。

○阿部計一委員長 この点については、これはまだはっきり言うて、はっきりしてないところがあんないかな。これも委員と執行部とやりとり、聞きよっても、余り何かこう、ピンと来んようなところがあるわけよ。そうやからもうちちょっと煮詰まってから。きょうはもう、一応この議論についてはもう。それでないと、ほかの委員さんも何か聞きたいこともあるだろうし。一応、この食の拠点についてはこれでストップということで、ほかのことでひとつ、やってほしいなと思います。

もうちょっと執行部のほう、また。

○長船吉博委員 プリントでくれませんかというて今、要望しよるので、それを。

○阿部計一委員長 それはどうですか。
農業振興部長。

○農業振興部長（神田拓治） 委員会が終わった後、配付しますのでよろしくお願ひします。

○阿部計一委員長 そしたらほかに。
砂田委員。

○砂田杲洋委員 一つ、よろしいか。競馬馬の育成のことやけど、何かだんだん、馬が入ってきよるんで。現在、何頭ぐらい入っておるのか、わかりませんか。かなりふえとると聞いとるのやけど。
それと、地元雇用とかはあったのか、なかったのか、わかったら。

○阿部計一委員長 企業誘致課長。

○企業誘致課長（北川真由美） 先月に競馬馬の現場を視察いたしましたときに、41頭ぐらいとかいうふうにお聞きしとったんですけど、それから10頭ぐらいふえたことをお聞きしてます。その後はちょっと、こちらのほうでは把握してございません。
地元雇用につきましては、今後、馬がふえてくるに従いまして、雇用していく方針であるということはお聞きしてますけど、実際に今、何人雇用されているかとかいうのは、ちょっとこちらのほうでは把握してございません。

○阿部計一委員長 よろしいですか。
ほかに。
長船委員。

○長船吉博委員 若人の広場の公園化。これ、今年度5億6,000万ぐらい予算化しておるけども、何かこう、あの丹下健三さんのモニュメントのところ、石積みのところ、何かさわるんですか。どこの石積みをさわるんですか。

○阿部計一委員長 都市計画課長。

○都市計画課長（原口久司） この月末に入札を行うんですけども、石積みについては今、旧の展示棟部分のところはほとんど一旦、石を取り外して、それから内部の躯体を補強して積み直すということで計画をしています。

○阿部計一委員長 長船委員。

○長船吉博委員 かなりその石積みというのは、特殊な積み方なのかな。非常にこう、工法的に石積みにも、僕ら素人やからわからへんけども、いろいろな石積みの仕方があるらしいんやな。そんなことを聞いとんのやけども、現場担当課として、そういうふうな石積みの方策というのは、やっぱり設計士からの試算で積算しとるのやと思うんやけども、いろいろな工法があるんですか。

○阿部計一委員長 都市計画課長。

○都市計画課長（原口久司） 通常のお城とかより、勾配が大分きつい積み方になってます。それで、昨年調査したときには、丹下設計をもとに大阪の石積みの専門の業者といろいろ調査をしまして、今度改修の、現状と同じような積み方なんですけども、補強のところは考えて設計はしているかと思います。

○阿部計一委員長 長船委員。

○長船吉博委員 となると、地元業者ではできらんという、僕ら、素人考えになるんよの。専門の石積みでなけりゃ、いかんわけでかろう。入札時、専門の石積み業者というのは限られてくるんよのう。そやからそこらを、公平な入札ができるんか、その石積み業者によって金が変わってくるんやけれども、そこらちょっと危惧した、素人考えやで。聞き流してもろうてもええねんけども、ちょっとそこらを危惧した部分がある。そこらをちょっと、注意して慎重にやっていただきたいなというふうに思っております。

○阿部計一委員長 答弁よろしいか。

ほかに。

印部副委員長。

○印部久信副委員長 この耕作放棄地について聞きたいと思うんですが、このたびの予算書の事業概要説明書の7ページに、耕作放棄地再生促進事業ということが書いてあるわ

けですが、市としてこのたびのこの予算の800万円は、あわじ島農協が運営するアグリア일랜드に対して、機械導入経費を助成しますということを書いているわけですが、この耕作放棄地は、この資料では200ヘクタールということなんですが、実際この事業、今、どんなように進みますか。

○阿部計一委員長 農業振興部長。

○農業振興部長（神田拓治） 耕作放棄地のその800万円の件でございますけども、基本はあわじ島農協の子会社でありますアグリア일랜드が中心になるかというふうに思っております。アグリア일랜드につきましては、この6月の総会におきまして、農業生産法人をとるべく、今、進めていただいておりますというふうに聞いております。耕作放棄地が結構、南あわじ市内にあるということで、これを解消する、再生するについて、農機具が要るであろうということで、前もお話ししましたが、南あわじ市としてはその対策に何か手だてはないかなということで模索しておりました。耕作放棄地をする機械については後、管理していただける団体がなかったと、今まで。アグリア일랜드の中で協議した中で、うちのほうで耕作放棄地を再生しようという話がありましたので、そこへ市として、この耕作放棄地の機械購入について、うちは支援しよう。ただし、アグリア일랜드の耕作する農地のみならず、市内で希望があれば、リース料をとっても構いませんので、その管理の中で耕作に支援してもらえないかということで、アグリア일랜드のほうも了解していただきましたので、その機械導入について800万円のうち300万円。

後の500万円については、これは耕作放棄地再生事業、国の事業があります。国の事業が、再生するのに一つの目安として、耕作して肥料して、作物ができるについて、開墾するについては大体、1反当たり15万円ぐらい要るであろうという中で、国のほうが5万円、補助金としていただけると。後、10万円のうち、うちは5万円支援しよう。後の5万円については自費で、自己負担ということで。この5万円、うちは1反当たり支援するというので、目標10ヘクタールで500万を予算に計上しておるという状況でございます。

○阿部計一委員長 印部副委員長。

○印部久信副委員長 これは、今、現状のあわじ島農協のアグリア일랜드の、現状の事業を見よったら、ほとんど農繁期の人材派遣というのがもう圧倒的な事業になっというふうに思うんよ。このたび、あわじ島農協もこのアグリア일랜드を充実するために、人員もふやしてやっというなんやけれども。この耕作放棄地の農地再生事業、この国庫補助の一反当たり5万円補助というのは、以前から国の事業であったように思うのやけれど

も、南あわじ市でこれの対象になつとる面積、どれぐらいありますか。

○阿部計一委員長 農業振興部次長。

○農業振興部次長（森本秀利） 対象といたしますか、実績面積を今、持ってるんですけど、よろしいですか。22年度で31アール、23年度でも31、24年度で85アールになってます。

○阿部計一委員長 印部副委員長。

○印部久信副委員長 これ、85アールというのは、いわゆる8反よの。ということは極めて低い数字のように思うのやけれども。このたび、25年度の予算で500万円ということなんですが、これは、この予算、これだけ消化できるようになるように思うてますか。現状はこれ、予算組んであるねんから、これぐらいのことが起こるであろうというように組んであると思うねんけれども。これは、何かの根拠を持ってのこの数字挙げとるわけ。

○阿部計一委員長 農業振興部長。

○農業振興部長（神田拓治） 一応、アグリア일랜드とも相談の上、決めたんですけども。市内、これは農業委員のほうから報告すべきものだと思うんですけども、今の現状を見ますと、耕作放棄地、南あわじ市内で262ヘクタールあると。それで、この間もありましたように、緑、黄、赤というような分類をしておると。緑については草刈り等を行うことにより直ちに耕作することが可能な土地ということで、89ヘクタールあります。この緑を中心に、できたら再生していただきたいなということで、アグリア일랜드の相談の中で、一応、当初ですのでスタートが6月からやよってに、1年間、フル活動できないので一応、相談の中で10ヘクタール、挙げさせていただきました。

○阿部計一委員長 ほかに。
谷口委員。

○谷口博文委員 基本的なことをお尋ねすんのやけども。安倍政権になって、農業所得倍増等々言われておる中で、TPP参加表明、私はこれ、けさの新聞を見ておったら、やはり農業就業者の数が激減するような新聞報道がされとんねけんど。実際この農業所得、農漁業、酪農、その辺の所得というのは大体、南あわじ市内において、平均所得というの

はどれぐらいあるわけなんですか。農業、漁業、酪農の平均所得。いや、もうわからなかったらまた後で調べてもらったらええねんけどな。

要は、アベノミクスでないけど、今、景気が浮揚しておるような中で、安倍政権下において農業所得倍増やというようなことが発表されておりますわな。かというてこれ、TPP参加表明したような状況で、私は南あわじ市の農業、漁業、酪農が、壊滅的な打撃を受けるのではないかなというような思いがあんのよ。一部、先般のアベノミクスのやつの山形のチェリーがどうじゃこうじゃいうて、一部のやつは残んねけど、実際、戦後1,200万人おった就業者が、きょうの新聞報道を見よったら、農業、漁業関係者だけで240万切つとるぐらいの就業人口になつとるわけやの。大規模化することによって、そういうふうな所得倍増いうとんのやけど、私はこれ、TPP参加したら、南あわじ市に対する非常に厳しい状況下になるのではないかなという思いがあるわけよ。

ほんで、そこで大体、今、農業の関係者とか漁業関係者、酪農の関係者、これ、年々高齢化して、なおかつ人口が減ってきてよと。ほんで、平均所得というのはこれ、実際、どれぐらい所得があるのかなと。私自身はこれ、所得があれば新規就農でないけど、後継者の育成というのは当然でけんのやけど。農業、漁業、酪農にも後継者が育たんということは、それなりの所得が確保がでけへんさかいに、後継者が減りよるのでないかなといった、基本的な私のそういう思いがあんのよ。そこで、南あわじ市としても何らかのそういうふうな施策を展開せんなんと思うんやけど。この基幹産業である農業、漁業、酪農に対して、その辺。農業、漁業、酪農の振興対策について、行政としてはどのような取り組みをすべきやというふうなお考えをお持ちでしょうか。

○阿部計一委員長 農業振興部長。

○農業振興部長（神田拓治） さきに委員さんが言われましたように、TPPの参加をすれば、非常な、特に南あわじ市にとっては乳製品、酪農関係について、肉牛についても大打撃を受けてくるんだろうなというふうに思ってます。国の施策といたしましては、攻めの農林水産業ということで、3本柱を打ち立てております。一つが、需要の拡大。日本にはいい食材があるので、世界に打って出ようと。2本目については、6次産業化を推し進めていこうというのが。3本目については、今の農業の状況を見ますと、零細農家が多いと、兼業農家が多いと。それを、農地を集積し、担い手をつくって、規模をある程度拡大していこうというふうな考え方で、3本柱で攻めの農林水産業を推し進めております。

これを、南あわじ市に当てはめた場合、なかなかこの3本柱を推し進めるのには難しいのかなと。今、一番力を入れていきたいのは、3番目に言いました農地を集積関係。もう高齢化になってきて、南あわじ市も平均年齢が68歳ぐらい。今後を考えた場合に、新しい新規就農者を育てていかなければ農業を継続できないであろうと。それには、ある程度

農地を集積せなあかんということで、この間もありましたように、人・農地プランである程度、地域地域にあった将来計画を立ててもうて、そこで改善策を地域みずから立案し、それに対して行政も力を入れていきたいなというふうに思っております。

○阿部計一委員長 谷口委員。

○谷口博文委員 ほんだら今、農地集積言うただ。ということは、圃場整備率をもっと高めるために頑張るとか、南あわじ市は圃場整備率が県下の平均に比べたらまだ劣つとると。だからもっと積極的に、この農地集積の担い手が農業をしやすいように、圃場整備をどんどん今から積極的に進めていくんやと。そういうふうな回答が欲しいわけやの。

それと、今言うた6次産業化において、食の拠点等々で、積極的にやはり生産、加工、販売までして、農家の担い手をふやすやと、そういうふうな施策展開を打っていきますいう、私はそういう回答が欲しいわけやの。ほんで、その辺はもう一度、再度お願いしたいのやけど、その辺、もう一度、農業のほうで、南あわじ市の今からのほんまにこの1次産業、農業の生産、所得倍増するための事業の施策を目標として、もう一度部長、はっきりとお願いいたします。

○阿部計一委員長 これ部長、TPPには参加、今から交渉していくのよって、それはなかなか、谷口委員、ええかげんな答弁できへんと思う。それは、私が思うのはそんな、日本の第1次産業である農業が、これは昔から銀行や農業いうのは保護政策とってきて、まあ、銀行はつぶれたりしよるけれども。それは、そういう面では交渉段階、どないなっていくやわからんけどもやな。

○阿部計一委員長 谷口委員。

○谷口博文委員 要は、安倍政権下が、農業の所得倍増やいうとったさかい。そんじゃまあ、酪農と水産のほう、この辺の、南あわじ市の水産業であったり酪農、どういうふうにして今から所得倍増なり、地域の活性化、経済の活性化のためにどういうふうな、市は取り組みがあるか、その辺だけちょっと教えてください。

○阿部計一委員長 谷口委員、安倍政権が言いよんのやって、農業は大丈夫やて。

○谷口博文委員 委員長、水産も。きょうのやつ見よったら、かなり所得が激減してつとるさかい、水産は今からもっと。例えば、並型をもっとどんどんやるとか、養殖してどんどん積極的に取り組むような、補助をつけていくとか、何かそういう知恵、ないんけ。

この辺ちょっと、水産課長なり、産業振興部、これだけ答弁してください。

○阿部計一委員長 水産振興課長。

○水産振興課長（榎本輝夫） 済みません、漁業に関しましては、私も素人なもので、まだ勉強中なものであれなんですけれども。漁獲量が今、どんどん、年々、減っております。その関係で、数年前から稚魚の放流とか、あと、並型魚礁等の魚の住む場所の整備、それから、栄養塩の確保ということで、各漁場の海底耕うん等、いろいろ行いまして、漁獲量の拡大に尽力しておると、そういうようなところがございます。

○阿部計一委員長 谷口委員。

○谷口博文委員 わかりました。中間育成というか、稚魚を放流したりとか、並型やったりとか、海底耕うんしながら、そういうふうな豊かな海を確保するという事業を継続してやるということやの、そういうことでしょう。

ほな次、酪農のほうをちょっとお願いします。

○阿部計一委員長 農業振興部次長。

○農業振興部次長（森本秀利） 酪農というか、畜産も含めての事業を幾つか御紹介をさせていただきます。

一つは、優良の後継牛の育成事業ということで、乳牛の増頭、ふやす事業、これについてを事業展開をしております。通常の種類つけよりも約1万円割高のために、差額の1万円の助成をするということでございます。今のは畜産のほうでございます。

酪農のほうにつきましては、北海道牛の緊急輸入助成事業というのを展開をしております。これも導入にかかります経費補助をさせていただいております。あと、乳質向上の支援事業ということで、搾乳用の機械の交換の経費を助成することで乳質の向上をはかるということで事業展開をさせていただいております。

○阿部計一委員長 出田委員。

○出田裕重委員 4月に組織が変わって、まだこういう質問をしてなかったんですけども、世界遺産の推進室というのが、部長付ということで新しく。室長を含めて3人、そういう人事がなされてるんですが、2カ月たとうとして改めて、この設立の趣旨と、最終的にはどんなふうに業務、役割分担して部長2人でやってんのかなというのも聞きたいです

し。まず、趣旨から始まってお願いしたいと思います。

○阿部計一委員長 世界遺産登録推進室長。

○鳴門の渦潮世界遺産登録推進室長（興津良祐） この世界遺産につきましては、昨年3月20日、前ユネスコの事務局長の松浦さんを招いて、基調講演を行っております。その中で松浦さんは、渦潮の現場を見た中で、この渦潮の世界遺産についてはまだ若干可能性があるというような趣旨の発言も聞いております。そういうことで、こういう今、富士山もこの6月に認定になるということで、各新聞紙上をにぎわしております。そういう長い取り組みにはなるとは思いますけども、そういう取り組みが輪になって広がっていくことによって、この南あわじの観光にも発展するのかなと思っております。また、取り組みについて、来週ですけども、松浦さんにお会いする機会ができましたので、そういう講演内容について、もう少し具体的に聞いて、どういう取り組みが進んでいったらいいのかということも聞いていきたいと思っております。

○阿部計一委員長 出田委員。

○出田裕重委員 まあ、これからだろうとは思いますが、3人体制でそこまで、はっきり言って、やることあるのかなというような心配をして。365日フル回転して動いていけば、何かあるでしょうけど、目標が大きいのので、ある程度そういうスケジュールとか、ことしの目標、短期目標、中期目標というようなものをちゃんと立てて、まずやること。

それから、産業振興部付部長というような名前もついて。実際、現場ではどんなふうになされてるんですか、組織として。岸上部長の補佐やとかいうような雰囲気も感じますけど、補佐とかそんなんはまた別の話であって。業務の役割分担とかはどないなってますか。

○阿部計一委員長 産業振興部長。

○産業振興部長（岸上敏之） 業務の役割につきましては、元の産業振興部の事務分掌等につきましては私が部長として携わらせていただいております。興津部長につきましては室長ということで、その中で取り組んでおるところでございます。

○阿部計一委員長 世界遺産登録推進室長。

○鳴門の渦潮世界遺産登録推進室長（興津良祐） 先ほど、長期目標、短期目標、中期目標、その中で、今年度の取り組みについてはやはり、世界遺産の登録をしたところの事例を。運営協議会ということで、各市の課長なり、くにうみ協会なり、そういう組織がありますので、事例の箇所を何カ所か見て、全体の協議会の中で短期計画を持っていきたい。また、中期的には今、渦潮については自然遺産ということで、これ平成15年に環境省なり林野庁が19地区を絞り込んで、最終的に3地区ということで、知床、また、小笠原諸島が世界遺産の登録になって、今、奄美・沖縄諸島が暫定リストにあがった段階で、今、新たに世界自然遺産の検討作業に入っていくというニュースを聞いておりますので、そこら辺の情報もつかんでいきたいなと思っております。

○阿部計一委員長 出田委員。

○出田裕重委員 余計な心配を僕もしてるみたいだと思うんですけど、時間があるんであれば、私は産業振興部の仕事をしてもらってもええと思うんです。部下2人いるんでしょう、室長。そういうこともしてもいいと思いますし。あと、登録に向けてのそういう事務手続とか研究とかというのももちろん必要ですけど、周辺というか、鳴門海峡近辺のそういう事業とか、思いつかないですけど細かく言えば清掃活動とかそういうのにもなってくると思うし、富士山は20年前に山梨県の周辺で署名運動を展開して、40万とか50万の署名をとったりとか、そういうこともしてきてるみたいですよ。だから、推進のための研究も、それはそれでいいですけど、やっぱり具体的な事業もはめ込んでいかんことには、3人分の仕事もないと思うんです。実際、どうですか。今、3人、フルに動いてるんですか。

○阿部計一委員長 世界遺産登録推進室長。

○鳴門の渦潮世界遺産登録推進室長（興津良祐） 3人フルに働けるように今、計画をしております。また、富士山の登録について、そのボランティア活動の中で220万人の署名を集め、また、国会のほうに請願をした中で、衆議院、参議院でその請願を採択しておりますけども、先ほど言いましたように、平成15年の中の19のリストにあがっておったんですけども、その選考が漏れたということで、文化遺産のほうに申請がえをして進んでいった、そういう経過を聞いております。

○阿部計一委員長 出田委員。

○出田裕重委員 これ最後にします。副市長、さっき僕、要らんこと言いましたけど、

兼任であれば、兼任じゃないかもわからへんけども、産業振興部も忙しいときもあれば、閑散期もあれば、世界遺産推進室も暇なときもあれば、いろいろ状況あると思うんですけど、どんな感じでこの室をつくったんですか。今の聞いてて、何か補足あれば。

○阿部計一委員長 副市長。

○副市長（川野四朗） 出田委員さんも一番先にこの世界遺産登録を議会で取り上げられたと思うんです。やはり、世界遺産に登録を目指そうということであれば、我々の意気込みとしても、そういうふうな体制づくりはしていかないと。やれたらやったらええわでは、こういう大きな仕事はできていかないと考えております。

先ほど来、お話があったように、やっぱりこれからやっついこうとすれば、やることはいっぱいあります。まだ3人では足らぬのでないかなと私は危惧しておりますが。3人で足りないほどの仕事、やっぱり今後やっていただかなきゃならんと思うんです。まだまだこれから、淡路島内での組織づくり、これについてもなかなか、旗を振るだけでは皆さん方については来てくれませんので、一々足を運んで説得をして、了解を取りつけて会合に集まってきていただく、今後どのような事業展開をしていくのか、手を握っていけるのか。まだ淡路でそういうところがございますので、3人おってもなかなか、ことし中に確固たる淡路の体制はできないのではないかなと考えておりますが、私は早く、淡路の体制づくり、淡路から県に、この体制の膨らみを持って行っていただきたい。

それから、そこまでいくと今度は、兵庫県と徳島県が手を握ってやっていただく。それができると今度は、鳴門の渦潮の世界遺産推進協議会というものを全国的な組織で展開をしていかならんわけですので。そういうところまでいこうと思えば、まだまだ遠い道だとは思いますが、それを普通列車で行くのか、普通列車では間に合わなかったら準急で行くのか、準急で行くよりも特急で行かならんのかという話になってきますと、かなりの事務的なものも要ります。その間にはやっぱり、ただそういう組織だけではだめでして、学術的な調査も必要になってまいります。経費もかなりかかることになるわけなんで、南あわじ市だけでは、とてもそういうものには太刀打ちはできませんから。そういうものも含めて、多くの皆さん方に応援をしていただく、この体制もつくらならんと思っておりますので。

御心配をいただいてありがたいんですが、南あわじ市はできるだけ縦割り行政はやめて、連携するものはしていこうということはしておりますけども、とりあえずは自分たちのする仕事をきっちりと果たしていただいて、なおかつ、余りが出てくるというようなことであれば、我々もまた組織的には考え直さならんと思っておりますが、まだそこまで考える、3人の中には余地がないのではないかなと、私は思ってます。

○阿部計一委員長 出田委員。

○出田裕重委員 ようわかっていますし、ようわかりました。長い道のりになると思いますし、今、思いつきでちょっと提案するんですけど、寄附とか。運営に対しての寄附とか協議会に対して寄附とか、いろいろ考えられると思うので、ふるさと納税というともたいろいろ、どうかもよくわかりませんが、その辺も含めてやっていただけるといいんじゃないかなと今思いましたので、つけ加えて終わります。

○阿部計一委員長 ほかに。
長船委員。

○長船吉博委員 岸上部長、先般、イカ釣り漁船が操業停止、2日間、やったやな。あれ、何のためにやったか、理解していただいているよね。イカ釣りには電気をつけるのに、それと燃料、かなり使うんで。燃料が円安になって、燃料費が高騰しているということなんや。これ、イカ釣り漁船だけ違う。先般、18日に会派で沼島のほうへ議会報告会へ行ってきたときに、沼島の漁業者から、軽油、今ほとんど漁船は軽油を使うとんねん、昔は重油やったけど、ほとんど軽油なんや、1リットル60円が限界やと、言いよるわけよ。今、軽油、何ぼしとるかわかりますか。多分わからんだろうと思うよって。一般、油屋で大体、120円から124円ぐらいの間やと。ほいで、漁船は軽油税要らるので、100円。今、100円前後で購入しよる。それだけ油代が上がっておると。これ、漁業、釣りに行っても1日の油代にもならんね言うて。そういうことを聴衆の方が言うわけやな。これ、国のほうへ、全国漁連が、その軽油高騰における何らかのアピールをしようと思っねんけども、そこらの情報とか、そういうようなんはとってないんでしょうか。

○阿部計一委員長 水産振興課長。

○水産振興課長（榎本輝夫） 失礼します。兵庫県連の決起大会というのが今度、淡路のウェスティンの夢舞台のところでございまして、市長のほうにもそれ、要請が来ておりまして、行ってくるようになってます。それで、淡路地区の組合でバスを仕立ててそこへ行くというふうな情報は聞いております。

○阿部計一委員長 長船委員。

○長船吉博委員 知っとなってくれば、ありがたいねん。それ、僕らも聞いとんねん、福良漁協から2人行くねん言うて聞いとんねんけども。やっぱりその、全国からかなりの

人、国のほうへ要請へ行くと思うんやけど、そういう情報もやっぱり今後逐一、漁業組合と情報交換してやってもらって、また、それを産業振興部のほうで、何らかの改善、また対策等があれば協議して行ってほしいなという思いで、ちょっとこんなことを言わせてもただけで。わかってもらったんで、これで終わります。

○阿部計一委員長 ほかに。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○阿部計一委員長 それでは、ないようでございますので、その他に入ります。
その他で何かありますか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○阿部計一委員長 ないようでございますので、執行部から何か報告事項がありましたら、お願いします。
農業振興部次長。

○農業振興部次長（森本秀利） 済みません、報告事項じゃないんですけども、先ほどアンケートの結果を、後で配付をさせていただくというお話をさせていただいたと思うんですが、ちょっとコピーの時間がありますので、事務局に預けるということでもよろしいでしょうか。

○阿部計一委員長 結構です。終わってからしておいて。
産業振興部長、何か報告ないんですか。
産業振興部長。

○産業振興部長（岸上敏之） 今回の予算で、一昨年実施いたしました、去年は実施しなかったわけなんですけど、商工会の関係のGENKIふれあい振興券、これを6月に販売をさせていただくこととしております。今回につきましては、対象が商工会の会員の業種が対象ということになってございます。それで、会員ということになれば、業種の大小にかかわらず、会員であるということなんですけど、参考なんですけども、湊にあるシーパのマルヨシセンター、リベラル、ホームセンターダイキ、このあたりは会員でございまして。それと、会員でない少し大きい店舗と申しますか、そこにつきましては、会員でないということで今回対象外になるところでございまして。イオン、マルナカ、ジョーシン、それか

らコメリ、青山といったようなところが主なところでございます。どうぞ、購入のほうをまた、どうぞよろしくお願ひしたいと思ひます。

(発言する者あり)

○産業振興部長(岸上敏之) 2億円でプレミアムつきということで、2億2,000万円ということになってございます。

○阿部計一委員長 この関連で何か、質問があつたらお受けしますが、よろしいですか。

それでは今、部長から報告がありましたとおり、プレミアの商品券については、今回はそのような方向で販売をするということで御理解をいただきたいと思ひます。

長時間にわたりまして、慎重御審議ありがとうございました。今後とも、よろしくお願ひをいたします。

これで、産業建設常任委員会を閉会いたします。

(閉会 午前11時43分)

委員会条例第30条の規定により、ここに署名する。

平成25年5月23日

南あわじ市議会産業建設常任委員会

委員長 阿部 計一